SUMITOMO RUBBER INDUSTRIES, LTD.

# 安全データシート（SDS）

## 1 化学品及び会社情報

**化学品の名称**

| | |
|---|---|
| **製品名** | タイヤパンク応急修理剤 |
| **整理番号** | IMS67 |

**会社情報**

| | |
|---|---|
| **会社名** | 住友ゴム工業株式会社 |
| **担当部署** | IMS ビジネスチーム |
| **住所** | 〒651-0071　兵庫県神戸市中央区脇浜町 3-6-9 |
| **電話番号** | 078-265-5868 |
| **Fax 番号** | 078-265-5686 |
| **電子メールアドレス** | sri-ims.az@srigroup.co.jp |
| **緊急連絡電話番号** | 078-265-3000（9:00-17:00） |

**推奨用途及び使用上の制限**

タイヤ用シール剤

## 2 危険有害性の要約

**GHS 分類**

| | |
|---|---|
| **物理化学的危険性** | 分類できない |
| **健康に対する有害性** | 分類できない |
| **環境に対する有害性** | |
| 水生環境有害性（急性） | 区分 3（H402） |

**GHS ラベル要素**

| | |
|---|---|
| **絵表示** | 該当しない |
| **注意喚起語** | 該当しない |
| **危険有害性情報** | H402: 水生生物に有害 |
| **注意書き** | |
| ［安全対策］ | 環境への放出を避けること。 |
| ［廃棄］ | 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。 |

**他の危険有害性**

情報なし

**重要な徴候及び想定される非常事態の概要**

情報なし

## 3 組成及び成分情報

### 化学物質・混合物の区別

混合物

### 組成及び成分情報

| 化学名又は一般名 | CAS 番号 | 官報公示整理番号 | 濃度又は濃度範囲（wt%） |
|---|---|---|---|
| 天然ゴムラテックス | 9006-04-6 | ― | 非開示 |
| 粘着樹脂乳化物 | 非公開 | ― | 非開示 |
| 溶剤 | 非公開 | ― | 非開示 |
| 界面活性剤 | 非公開 | ― | 非開示 |
| 水 | 7732-18-5 | ― | 非開示 |
| アンモニア | 1336-21-6 | (1)-314 | ＜0.5 |

## 4 応急措置

### ばく露経路による応急措置

| | |
|---|---|
| 吸入した場合 | 直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、安静を保つ。症状が続く場合、医師の診断を受ける。呼吸が停止している場合には、人工呼吸を行い、呼吸困難な場合、酸素供給を行う。 |
| 皮膚に付着した場合 | 汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。製品に触れた部分を水と石鹸で洗浄する。溶剤や希釈剤を使用しない。皮膚の刺激が続く場合、医師の診断を受ける。 |
| 眼に入った場合 | 水で 15～20 分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。医師に連絡すること。 |
| 飲み込んだ場合 | 大量の水で口の中をよく洗浄する。意識がある場合には吐き出させる。直ちに医師の診断を受ける。嘔吐が自然に生じた場合、気管への吸入が起こさないように身体を傾斜させる。 |

### 予想される急性症状

アレルギー、特に呼吸気道のアレルギーが観察された場合、直ちに医師の診断を受ける。

### 遅発性症状の最も重要な兆候症状

本製品のばく露による遅発症状（皮膚に付着した場合、眼に入った場合、吸入したまたは飲込んだ場合）が起こる場合がある。

### 応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

### 医師に対する特別な注意事項

当製品の含有成分を知らせること。

## 5 火災時の措置

### 適切な消火剤

本製品は燃えないが、周囲の火災に応じた消火剤を用いる。

### 使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

### 特有の危険有害性

高温での分解ガスには一酸化炭素が含まれるので、消火作業の際には煙を吸入しないように注意する。

### 特有の消火方法

火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。
延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする。
消火活動は風上から行う。
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
速やかに風下の人を退避させる。

### 消火を行う者の保護

火災中、燃焼または熱分解による刺激性又は有毒ガス（一酸化炭素、二酸化炭素等）が生じる。
密閉場所で消火を行う場合、必ず陽圧式自給式呼吸器（SCBA）を含める完全な保護具を着用する。

## 6 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8　ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
処理終了後、漏出場所を徹底的に洗浄する。
屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。特に密閉場所では、周辺の発火源を速やかに取り除く。
危険でなければ漏洩を止める。大量漏出の場合、関係者以外及び防護具着用のない人を風上に退避させる。
漏出物を接触又は踏まないように注意する。

### 環境に関する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。
回収した漏出物は工業有害廃棄物として処理する。

**封じ込め及び浄化の方法及び機材**

危険でなければ漏れを止める。
砂、シリカゲル、酸性粘着剤、汎用粘着剤または木くずでよく拭き取り適切な廃棄容器に回収する。大量の水で残留漏出物を洗い流す。洗浄した汚水を回収する。
製品を誤って河川、湖、海に流出させた場合、直ちに関係機関に通報し、関連法規に従って必要な措置をとる。
すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
処理後汚染された地面を徹底的に洗浄する。
現場に十分な換気を行い、二次災害が発生しないように注意する。

## 7　取扱い及び保管上の注意

**取扱い**

| | |
|---|---|
| 技術的対策 | 「8　ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。 |
| 安全取扱注意事項 | 取扱い後はよく手を洗うこと。<br>熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。<br>容器を接地すること、アースをとること。<br>防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。<br>火花を発生させない工具を使用すること。<br>静電気放電に対する予防措置を講ずること。<br>取扱いは換気の良い場所で行う。<br>運搬時に容器に漏洩がないように注意する。<br>取扱い時に高温、密閉容器への加熱を避ける。<br>容器を転倒、落下させる、引きずる、または容器に衝撃を加える等の粗暴な取扱いをしないこと。<br>皮膚と眼の接触、蒸気または噴霧の吸入を避ける。<br>皮膚アレルギー、喘息、アレルギー、慢性または周期性呼吸疾病のある人は本製品を使用してはならない。 |
| 接触回避 | この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。 |
| 衛生対策 | 取扱い完了後、速やかに汚染された服、防護具を脱ぎ、シャワーを浴びて着替えを行う。 |

**保管**

| | |
|---|---|
| 技術的対策 | 「8　ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。 |
| 混触禁止物質 | 強酸化剤、酸類等 |
| 保管条件 | 直射日光、高温を避け、換気された 15℃以上で保管する。<br>強酸化剤、酸類、食品、飲料、動物飼料と一緒に保管しないこと。 |
| 容器包装材料 | 元の密閉可能な容器を使用する。 |

## 8 ばく露防止及び保護措置

### 管理濃度

設定されていない。

### 許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）

| | |
|---|---|
| ACGIH TLV-TWA (2012) | 0.0001 mg/m$^3$（天然ゴムラテックス（インハラブルアレルギー性タンパク質として）） |

### 設備対策

取り扱いの場所の近くに、洗眼および身体洗浄剤のための設備を設ける。
作業場は十分な換気及び排気設備を設置する。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

### 保護具

| | |
|---|---|
| 呼吸用保護具 | 蒸気が発生する場合、濾過式呼吸用保護具を着用する。 |
| 手の保護具 | 適切な不浸透性保護手袋を着用する。 |
| 眼の保護具 | 密閉型保護眼鏡やゴーグルを着用する。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 保護衣、保護エプロン、安全靴等を着用する。 |

## 9 物理的及び化学的性質

| | |
|---|---|
| 外観（物理化学的状態、形状、色など） | 乳白色液体 |
| 臭い | 僅かなアンモニア臭 |
| 臭いの閾値 | データなし |
| pH | 9.5～11 |
| 融点・凝固点 | データなし |
| 沸点、初留点及び沸騰範囲 | 100℃ |
| 引火点 | データなし |
| 蒸発速度 | データなし |
| 燃焼性 | データなし |
| 燃焼範囲の上限・下限 | 適用外 |
| 蒸気圧 | データなし |
| 蒸気密度 | データなし |
| 比重 | 約 1.0 g/cm$^3$ |
| 溶解度 | 水：可溶 |
| *n*-オクタノール／水分配係数 | データなし |
| 自然発火温度 | データなし |
| 分解温度 | ＞300℃ |
| 粘度 | データなし |
| 流動点 | -50℃ |
| 酸化性 | なし |

## 10 安定性及び反応性

| | |
|---|---|
| 反応性、化学的安定性 | 通常の取扱い条件下では安定である。 |
| 危険有害反応可能性 | 情報なし |
| 避けるべき条件 | 高温、熱源、炎、花火から遠ざける。<br>直射日光を避ける。<br>静電気を防止し、密閉容器で保管すること。<br>加熱しないこと。 |
| 混触危険物質 | 強酸化剤、酸類等 |
| 危険有害な分解生成物 | 火災等の場合は、刺激性または有毒ガス（一酸化炭素、二酸化炭素等）が発生する可能性がある。 |

## 11 有害性情報

### 製品の有害性情報

情報なし

### 成分の有害性情報

界面活性剤

| | |
|---|---|
| 急性毒性（経口） | 500 mg/kg（推定値、詳細不明） |
| 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 | ウサギで眼刺激性なし（OECD TG405 準拠） |
| 皮膚感作性 | 皮膚感作性なし（LLNA 法） |

アンモニア

| | |
|---|---|
| 急性毒性（経口） | ラット $LD_{50}$ = 350 mg/kg |
| 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 | ヒトへの影響において腐食性が示されている。 |
| 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 | ウサギの試験データ、ヒトへの影響において腐食性が示されている。 |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | ヒトへの短期暴露の影響として、気道腐食性を示し、高濃度の蒸気を吸入すると喉頭水腫、肺炎等を起こすとの報告がある。また、吸入暴露により肺水腫等を起こすとの報告がある。 |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | 反復暴露の影響として、蒸気やエーロゾルに反復ばく露により、肺が冒されるとの報告がある。また、低濃度の反復暴露により慢性気管支炎を起こすとの報告がある。 |

## 12 環境影響情報

### 製品の環境影響情報

| | |
|---|---|
| 生態毒性 | 情報なし |
| 残留性・分解性 | 情報なし |
| 生体蓄積性 | 情報なし |
| 土壌中の移動性 | 情報なし |
| オゾン層への有害性 | 情報なし |

### 成分の環境影響情報

界面活性剤

| | |
|---|---|
| 水生環境急性有害性 | 魚類（ニジマス）96 時間 $LC_{50}$ = 0.57 mg/L<br>甲殻類（オオミジンコ）48 時間 $EC_{50}$ = 0.29 mg/L |
| 水生環境慢性有害性 | 情報なし |
| 残留性・分解性 | 界面活性剤中 90%以上の成分は生分解性を持つ。 |
| 生体蓄積性 | 情報なし |
| 土壌中の移動性 | 情報なし |
| オゾン層への有害性 | 該当しない |

アンモニア

| | |
|---|---|
| 水生環境急性有害性 | 甲殻類（オオミジンコ）48 時間 $LC_{50}$ = 0.66 mg/L |
| 水生環境慢性有害性 | 情報なし |
| 残留性・分解性 | 情報なし |
| 生体蓄積性 | 情報なし |
| 土壌中の移動性 | 情報なし |
| オゾン層への有害性 | 該当しない |

## 13 廃棄上の注意

### 残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
土壌、下水道、排水溝、地下水又はその他の環境中へ排出しないこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

### 汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14 輸送上の注意

### 国際規制

陸上輸送（ADR/RID の規定に従う）

| | |
|---|---|
| 国連番号 | 該当しない |
| 品名 | 該当しない |
| 国連分類 | 該当しない |
| 副次危険性 | 該当しない |
| 容器等級 | 該当しない |

海上輸送（IMO の規定に従う）

| | |
|---|---|
| 国連番号 | 該当しない |
| 品名 | 該当しない |
| 国連分類 | 該当しない |
| 副次危険性 | 該当しない |
| 容器等級 | 該当しない |
| 海洋汚染物質 | 該当しない |
| IBC コード | 該当しない |

航空輸送（ICAO/IATA の規定に従う）

| | |
|---|---|
| 国連番号 | 該当しない |
| 品名 | 該当しない |
| 国連分類 | 該当しない |
| 副次危険性 | 該当しない |
| 容器等級 | 該当しない |

### 国内規制

| | |
|---|---|
| 陸上規制情報 | 該当しない |
| 海上規制情報 | 該当しない |
| 海洋汚染物質 | 該当しない |
| 航空規制情報 | 該当しない |

### 緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号

該当しない

### 特別の安全対策：

保護具（手袋、メガネ、マスク等）及び消火器具を備える。
輸送前に、容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。
転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
直射日光、雨等の水濡れ、高温を避ける。
強酸化剤、その他の混触危険物質と一緒に輸送しないこと。
危険貨物に属しないが、輸送中に ICAO、IMDG、RID、ADR、AND の関連規則を順守する。

## 15 適用法令

| | |
|---|---|
| 労働基準法 | 疾病化学物質（アンモニア） |
| 労働安全衛生法 | 名称等を通知すべき危険物及び有害物（0.1 重量%以上を含有する製剤その他のもの）（アンモニア）<br>腐食性液体（アンモニア水） |
| 水質汚濁防止法 | 有害物質（アンモニア） |
| 海洋汚染防止法 | 有害液体物質（Y 類物質）（濃度が 28 重量%以下のものに限る）（アンモニア水） |
| 外国為替及び外国貿易法 | 輸出貿易管理令別表（無水アンモニア及びアンモニア水） |

## 16 その他の情報

参考文献

住友ゴム工業株式会社提供資料
NITE GHS 分類結果一覧（2013）
日本産業衛生学会 (2012) 許容濃度等の勧告
ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2012) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2012 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意下さい。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。

# [会社情報]

販売者：新鳥取スズキ
所在地：鳥取市五反田3番地
TEL:0857-31-6960